

木林と言う様な所で、附近には最近マンション等が立ち始めている。ここにギンヤンマ、カトリヤンマ、ミルンヤンマ、ヤブヤンマ、コシボソヤンマ、1例ずつであるが9-VII-78アオヤンマ1♀、17-VII-77マルタンヤンマ1♂等が夕方に飛ぶ所である。当日もうす暗くなるのを待っていると前方より太いやんまが来る。やり過ぎて後からすくと本種の♀、又少しはなれた所で往復摂食飛行している♂を採集した。

○ 5-VIII-79, 3♂, 上ヶ原浄水場。

朝早く行くとネアカヨシヤンマの♂が雑木林の中を♀を探すためのぞく様な飛び方をしていた。夕方まっすぐに豪快に飛ぶのと対照的にセカセカとした飛び方である。又どの個体も♀を探すコースは同じだった。種はちがうがヤブヤンマの♀が雑木林の中で止っているのを見た。なお同じ時刻にコシボソヤンマが小川沿いに飛びながら水にぬれた松の木、笹のついた石に産卵しているのを観察した。

ミヤマカラスアゲハ・クロコノマチヨウ

神戸市北区下谷上にて採集

高橋 寿郎

ミヤマカラスアゲハの六甲山系での記録は1938年谷口和義氏が「那須のり子女史が摩耶山にて採集されたる由」と発表されたのが一番始めてである（昆虫界，6巻，55号，P. 761）。山本広一氏は1930年頃布引の滝の下手で確にそれと思はれる春型を目撃したことがあるとされており（兵庫生物，5巻3・4号，P. 250，1967）、吉坂道雄氏は摩耶山上にて1956年6月8日、目撃したと記録している（兵庫生物，3巻，4号，P. 234，1958）。東正雄氏も御影付近で1960年夏型の雌を採集したと記録されている（兵庫の自然，P. 69，1966）。その後人見勝氏は和田岬神戸検疫所宿舎の庭で産卵中の2雌を採集し（1963年9月11日，9月29日）、それと思はれる1雌を目撃したと発表され（1963年9月29日）（蝶と蛾，15巻，1号，P. 26，1964）、筆者は鳥原貯水池へ致る途中で1雌を採集発表した（1965年9月19日）（蝶と蛾，17巻，1・2号，P. 49-50，1967）。やゝ離れた地点ではあるが神戸市北区の道場付近で2雌が採集されている（1966年9月15日，1968年9月1日，畑薫，堀田久氏，MDK NEWS，66号，P. 20-21，1968）。また1964年6月27日，神戸市立教育植

物園でも1雄が採集されている(山本広一, MDK NEWS; 67号, P. 16, 1968)。

須磨の鉢伏山では田中利典氏が1968年9月目撃、その時幼虫も採集出来たし卵からは翌年羽化の1雄が確認出来たとの報告をされた(MDK NEWS. 68号, P. 37, 1969)。この鉢伏山には割合いるようで岡村八郎氏は1970年5月10日交尾中の雌雄を得、同日他の採集者も数頭得たと聞いていると今迄の記録と合せて海岸線近くに定着しているとされている(昆虫と自然, 5巻, 12号, P. 3-4, 1970)。

以上が現在迄わかっている六甲山系でのミヤマカラスアゲハの記録である。1979年にまとめられた“藍那地区自然環境調査”でもカラスアゲハの記録はあっても本種の記録はない。さて今回神戸市が建設予定をしている「しあわせの村」敷地内環境調査で奥谷禎一博士と出掛けた際非常にきれいな1雌(右後翅や、破損)が採集出来た(1979年9月11日)。場所は神戸市北区下谷上であるが白川から藍那へ抜ける徳川道の東側の谷で自然環境としてそれ程良い所とは思はれない場所である(ひよどり台団地の西側のすぐそばの谷)。今迄の記録からして本種がこの六甲山系に定着しているのかどうか今一つ資料が不十分な感じがしないでもないが最近南方系種の進出が著しい中でこの北方系種の定着があるとすれば大変うれしい次第である(淡路島でも三原郡南淡町灘, 登日, 1974, 洲本市由良町, 安平町, 堀田, 1973の記録がある)。

尚当日同じ場所でクロコノマチヨウの1雄も採集、9月17日にも目撃出来た。この種も最近割合記録が多く発表されだした種なので今迄の記録を一応眺めて見たい。

1938年谷口和義氏がコノマチヨウとして“1937年10月、市外本山村にて櫟林中に数頭発見し中1頭を獲た。ismene型と思はれる。尚同郡住吉村及び神戸市内にて採集された標本を見た記憶がある”と発表された種は学名も *Melanitis leda* Linnaeus が使用されているのでウスイロコノマチヨウを意味されているのかもしれないが実物が見られないのでよくわからない。戦前でのクロコノマチヨウの正式の記録は無いように思う。戦後法西定雄氏によって有馬温泉から1雄が1951年9月24日採集され報告された(法西, 1952)、その後養父郡西谷方面、筏、若杉、中間で4雄、3雌が記録された(中尾, 1959)。そしてそれらを山本広一・吉阪道雄両氏はとりまとめられた(1960)。神戸市内からの記録は布引の奥トウエンテイクロス、兵庫区須佐野通があり(三木, 1979)、藍那付近でもいるとされている(川本, 1979)。宝塚付近にも割合記録があり宝塚付近、宝塚長寿ヶ丘(東, 1960, 1964, 1966)、切畑籠ヶ平井(石飛, 1971)、宝塚市(柳沢, 1971)が知られていて最近川辺郡猪名川町からも報告されている(山本, 1980)。県の中央部では姫路市飾磨郡中島、宍粟郡福知溪谷が知られている(井手, 1976)。それと淡路島にもこの所記録がふえ始めた。洲本市相川(登日, 1971, 1974)、

物部3丁目(堀田, 1978)、南湊町大川(登日, 1975)、新田旧大日ダム(浅田, 1978)、津名郡五色町広石(浅田, 1980)。以上が今迄の記録で本種も最近目につき出した蝶の1つであるように思はれる。西宮市ではウスイロコノマチヨウの記録があり(東, 1960, 1964, 1966)、コノマチヨウ *Melanitis leda* Linneé として六甲登山口、長田区で採集されたという記録もあり(柴内, 中畔, 1950)、ウスイロコノマチヨウ兵庫(神戸市一灘区)(吉坂, 1954)、六甲(神戸市灘区)という記録もある(吉坂, 1954)。こちらの方は割合記録の少い種のようなのである。